人參龍腦等調煉

謹曰抑此梅花膏者予家世々之秘方治療之
間此御藥以秘法製法仕置只
御上々様方御懇望献上仕大而貴藥出
不申候處今知己之類仕散貴病者之事
故久九而已

大木氏敬白

日本一流

真妙方

梅花膏

ちやうあんをし

むぶら業
一代

先祖より他家乃業とし
ちうひ地の人もやく
相かはらず御用ひ下さるべし

ほやうこんより已前
かけ人仕着上中は又
かけん、妙術わり

千金方

功能主治記

▲顔のでき物の一切
▲くさかさでき物
▲ひゞわれのきれ
▲きりきず一切
▲陰門でき物
▲下疳の毒虫にさゝれたるに妙
▲耳だれ○鼻の内一切でき物
▲痔疾一切とひゑきれ○あかぎれ疱瘡
▲髪の毛ぬけあかり○しらくもひ
▲小児はな毒腫てくさかさ一切妙
肌疹不痛をときかへすあかり丈
瘰けやき肉疵

神祭佛參は穢れの長手あかぬられふねからてよし
是不浄をよけ第一の藥なり又は梅つ痛の足ゆゑへ
鼻のさきにぬりても一切の悪気もよせ付ず申す

梅用ひ方紙にのばし又で貼りてあとさきわるくは付その
上々万能常用にしてもより痛ら挫ゆへ引ちたる事なし
おしれ経痛まへゆびしまはてぬりてよし

本家ちくや人伝

江都両國橋通米澤町

大木まうくての製

秘法わく
かうやくれ

ちんかう地万能膏

人参膏

青やくさし

くすりかけ薬

梅花膏　文庫10-8011-8
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library